

—しれとこ科学教室—

縮まりつつある人とヒグマの距離 いや～困った！私たちはどうすべき？

ヒグマづくし第1弾

「渡島半島での試行から学ぶ北海道のヒグマ保護管理」

講師：間野勉氏／北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 企画調整部 企画課長

とき：平成24年10月23日(火)19:00～20:30

ところ：斜里町ゆめホール知床 会議室1

斜里町では例年 600～800 件程のヒグマ目撃情報がありますが、今年は既にその倍の目撃が報告されています。また、札幌などの大都市でもヒグマの目撃が複数報告されている状況を鑑み、今後ヒグマとどう付き合っていくたらよいかをあらためて町民の皆様に考えていただくことを目的にヒグマに関する講演会を3回シリーズで企画しました。

◆講座内容の概要

第1回は、知床科学委員会の委員であり、北海道のヒグマ研究の専門家である間野勉氏を講師としてお迎えしました。

講演では、まず北海道全体のヒグマによる被害やヒグマの捕獲数・分布等の最新の動向についてお話していただきました。ヒグマの季節別捕獲数の推移の特徴から、1990年以降ヒグマの捕獲数が増えている理由は単に生息数の増加によるものではなく、農作物などを採食することを学習したヒグマの増加によるものである可能性があることや、渡島半島地域においてはドングリ等の豊凶と秋のヒグマの捕獲数との関係が認められることなど興味深いデータが示されました。

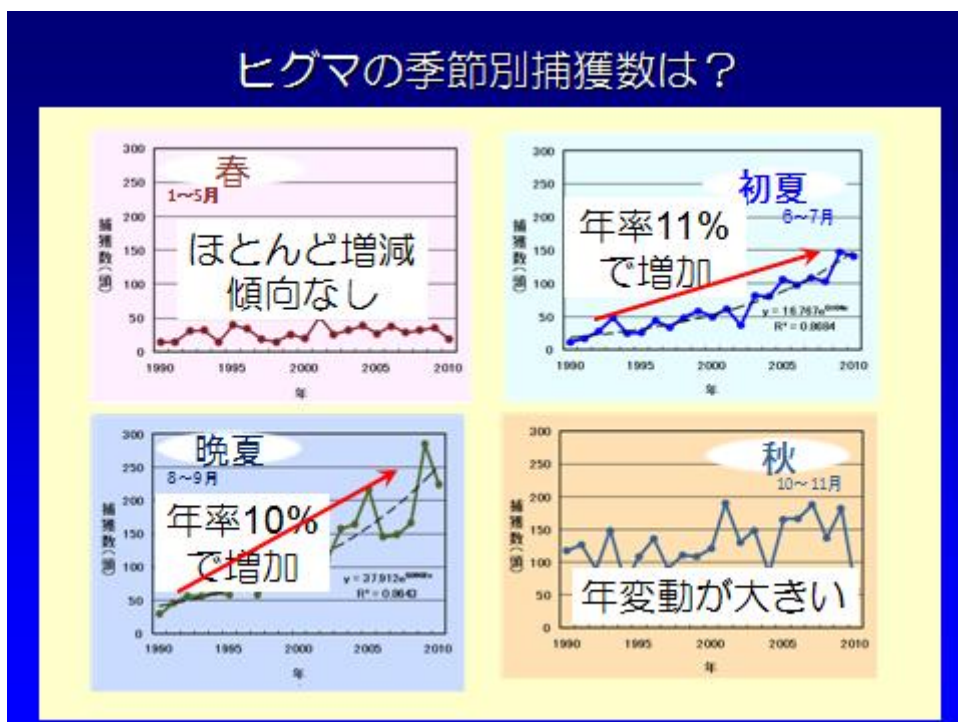
次に、今年度策定された「知床半島ヒグマ保護管理方針」の基礎となった渡島半島地域のヒグマの保護管理計画（ヒグマの保護管理とはどのようなものかについての考え方の枠組みを示したもの）の狙いや成果、全道計画に向けた課題についてお話していただきました。人間に対するヒグマの行動を段階別に定義し、その段階ごとに対応方法を変えていく考え方や、ヒグマと人間の軋轢を軽減するためにはヒグマの数をコントロールするだけでなく、人間活動に実害をもたらす「問題ヒグマ」を確実に除去するとともに、新たな「問題ヒグマ」を生まないための人間側の対策が重要であるという考え方が示されました。狩猟者を除く一般の人々にとってクマによる被害の最大の原因は突発的な遭遇で、被害頻度は低いですが深刻な被害につながる原因として餌付けやゴミの放置がある。クマが「人から食物が得られる」ということを学習すると人に対する恐怖心がなくなり攻撃的になる傾向があるとの研究報告がある。交通事故の原因となる飲酒やスピード違反を取り締まって事故の危険性を低減させるように、ヒグマによる事故の原因を取り除くための努力をすることが重要であるとの発表がありました。

当日の参加人数は49名で立ち見が出るほどの盛況ぶりとなりました。斜里町民のヒグマ

への関心の高さがうかがえました。



講座の様子



講座内で使用されたスライド (ヒグマの季節別捕獲数)